

# 永泉

日本基督教団瀬戸永泉教会 会報No.256 2022年4月17日発行

巻頭説教 「神が住んでくださる幕屋」 牧師 横山厚志

わたしのための聖なる所を彼らに造らせなさい。わたしは彼らの中に住むであろう。わたしが示す作り方に正しく従って、幕屋とそのすべての祭具を作りなさい。(出エジプト記 25 : 8~9)

昨年の4月から、教会堂の増改築工事が始まり、約1年になろうとしています。この原稿を書いているのが、2月後半です。新型コロナウイルスの影響もあって、工事は遅れ、3月末に完成予定です。この1年間、工事のために礼拝堂は使うことができず、CS館での礼拝を3回に分けて行ってきました。工事が完成して、礼拝堂で、礼拝を守れるようになれば、CS館での礼拝も懐かしく感じる時もあるでしょう。

教会とは何でしょうか。改めて考えてみたいと思います。出エジプト記には幕屋が出てきます。エジプトで長い間、奴隷だったイスラエルの人々は、神の導きにより、指導者モーセの働きもあって、奴隷からの解放、エジプトから出ることができました。イスラエルの人々は、エジプトを出て、約束の地カナンに向かって旅立っていくのです。シナイ山に来た時に、神はイスラエルの人々と契約を結びます。神は、イスラエルの神になり、イスラエルの人々は神の民になっていくということでした。この契約の中で、神はモーセを通して、イスラエルの人々に幕屋を造るように指示しています。

幕屋とは何かというと、神とイスラエルの人々が会う場所です。神は天地を創造されたお方です。イスラエルの人々が造った幕屋にいるはずはありません。でも、これは神ご自身の指示なのです。天地を創造された神は、イスラエルの人々に幕屋を造るように指示しています。その理由は、神ご自身がイスラエルの人々と会う場所として設定してくださったのです。神は、イスラエルの人々の弱さを知っていました。目に見えない場所ではなく、実際に目に見える場所を置いてくださり、ここにわたしはいる。ここに来れば、神と会うことができるとしてくださったのです。こうして、神の指示に従って、イスラエルの人々は、幕屋を造っ

ていくことにします。やがて、幕屋が完成して、人々は神と出会うことができるようになります。イスラエルの人々は、この荒れ野の旅を40年間歩むこととなりますが、人々の中心にはこの幕屋があったのです。人々は幕屋と共に移動していきます。

やがて、イスラエルの人々は、約束の地に入り、定住するようになります。そうすると幕屋ではなく、エルサレムには、ソロモン王によって、神殿が建てられるようになります。神殿が完成した時に、ソロモンは献堂の祈りの中で「ここはあなたが、わたしの名をとどめると仰せになった所です。この所に向かって僕がささげる祈りを聞き届けてください。」と語っています。神は、あえて人が造った神殿にいてくださる、住んでくださるといつてくださったのです。神殿を通して、イスラエルの人々は、神と出会うことができるのです。では、新約聖書ではどうなるかといいますと、次のような聖書の箇所があります。

また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心をつなげて求めるならば、わたしの天の父はそれを適えてくださる。二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。(マタイ 18 : 19~20)

イエス様は、教会という場所で、二人または三人が、イエス様の名前によって集まる所にはその中にいてくださるといつてくださっています。幕屋、神殿、教会を通して、私たちは神と出会うことができるのです。教会堂の増改築工事を、私たちの教会は行ってきました。その目的は、教会を通して、私たちが神と出会う場所をつくることでした。そして、この教会を通して、多くの人々が神と出会うことができるのです。



## 受洗者の紹介

### N・Y姉のご紹介

### N・A長老

『みなさまがたの仲間に入れていただくように言っていて感謝しております。87年生きてきて、すばらしい贈り物を神様からいただきました。』

ご迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願ひします。』

洗礼諮問会で、N・A姉はこう述べられました。N姉に代わり、ご紹介をさせていただきます。

N・A姉は、1935年、K・G兄の次女として生まれました。生まれたときは未熟児で、2歳で天に召された姉のAさんに続くのではないかと叔母さまがたに心配されながらも、元気に5人姉妹の筆頭として育てられました。姉妹は全員が、聖書に由来するお名前だそうです。

瀬戸聖書バプテスト教会で信仰を守り続けておられましたが、坂を上るのが厳しくなり、瀬戸永泉教会へ来られるようになり時が満ちて洗礼へと導かれました。

今後、瀬戸永泉教会でともに礼拝を守っていただけることをうれしく思います。



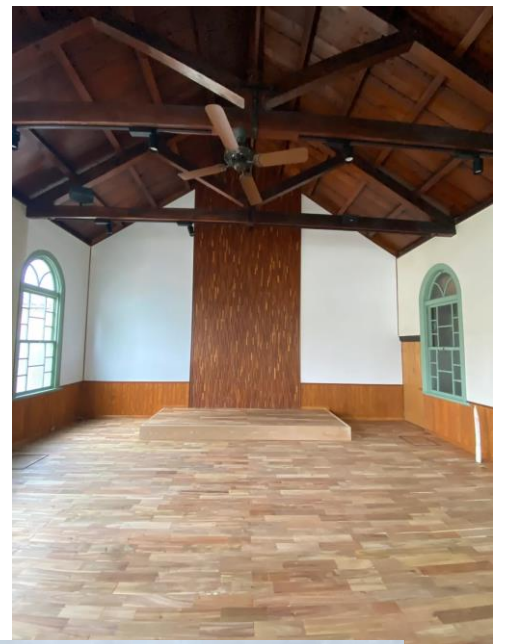
## 建築委員会からの報告

### リニューアルされた礼拝堂がもうすぐ出来上がります

#### O・N長老 (建築委員会委員長)

2021年4月18日起工式より始まった礼拝堂増改築は12月末に完成予定が綺麗に丁寧に行う中で、2度3度と予定がずれて竣工式(引渡し)は5月29日予定となりました。文化財としての価値を保ちながら改築をしていくことの大変さが良く分かりました。現在は、礼拝堂内外の板張り部が出来上がり、外壁の塗装もできもうすぐということが実感できるようになりました。この会報えいせんが読まれる時にはほぼ出来上がっていると思います。この間、2週に1回の建築定例会での打ち合わせ、月に1回の建築委員会で詳細な建築材料の決定も行いながら進めてきました。また礼拝堂建築等献金への献金額は、以前からの分も含めて総額は約5,400万円となり現時点での建築そのものへは十分となっています。もちろん新しく備品が必要となることもあるかもしれません。それはま

た皆様の希望を受けながら検討していくことになると思います。礼拝堂が完成することで建築委員会の役割は一度修了することになりますが、私たちに大切なことはこれからです。礼拝堂が主イエス・キリストの福音のみ言葉を伝える働きをこれからまた次の50年100年と行っていくことができるために祈り力を合わせていきましょう。4月24日(日)にはリニューアルされた礼拝堂で礼拝を行い、2022年度定期教会総会が開催できる時を楽しみにしています。これまでの教会員の皆様の祈りと献金を感謝いたします。



## イースターの思い出

### 『イースターの喜び、復活の希望』

M・N姉

イースターおめでとうございます。49年前、私は17歳のイースターに受洗しました。福音派教会の宣教師から洗礼槽に全身を沈める浸礼式で授けられました。すがすがしい気持ち、クリスチャンになった喜び、水から上がった時の肌寒さ、そして何よりも教会に誘い通うようになった親友と二人で受洗できたことの喜びは今もはっきりと記憶しています。彼女も京都でクリスチャンホームを築いています。私の両親も宣教師の説得で受洗を許しその場に立ち会ってくれました。またその時いただいた聖書箇所テモテへの手紙Ⅱ3:14~17を読んでいたければ幸いです。文字通り聖書は今まで私を教え、戒め、正し、義に導く霊の言葉でした。苦悩の中で聖書を読めない時も何度かありました。しかし、不思議なこと感謝なことに、いつの間にか聖書の言葉から近付いてきてくれた気がします。

昨年5月、夫を天に送りました。9か月間入院を繰り返し、コロナ禍にあって入院中はほとんど会えず、互いに不安と寂しさと先々の焦りへの限界でした。仕事を辞め家庭で夫との残された時を過ごし始められたものの12日間寄り添えただけでした。再入院で最期の3日間は付き添いを許可していただき、意識の遠のく夫との時間の中で、讃美歌をいっぱい歌いました。息苦しさの中で時々口を動かしながら一緒に歌おうとしてくれました。そして「天国で待っていてくれますか？」と問うと大きく頷いてくれました。漠然としていた『復活の希望』が私にぐっと迫ってきた瞬間でした。今もまだまだ涙する日々ですが、この希望が間違いなく約束されていることに感謝し、家族や隣人に福音を宣べ伝えていかななくてはと思います。夫との別れは辛くとも、たくさんの祈りと励ましをいただき、復活の希望へと招いてくださったイエス様に信頼し歩いてまいります。



## 長老の証

### 「信仰による義とは？」

K・R長老

勝手なイメージですが、聖書の真ん中には1本の川というか、泉というか水が湧き出ている涸れることなく流れているような気がしています。流れているのでやはり川の方がしっくりくるような気もします。本当にまっすぐにいつも真ん中にある川、私たちの知っているこの世の川は地形によって蛇行したりします。聖書の中の川も読む私たちの感情や勝手な期待感によって曲がって見えたりします。でも曲がっているのは私たち自身で聖書の川は決して曲がることなく真っ直ぐに流れているように思っています。

かつて私が求道者だった頃、まだ大学生で、この教会に通い始めた頃でした。礼拝の説教で”人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。”(ローマ3:28)についての内容でした。神を信じているという事だけで・・・？何もなくもいいのか？まだまだ信仰歴の浅い私には疑問でした。基本的にズルいことを考えがちな私には好都合でもあるような気もしましたが・・・。通っていた大学はカトリック系の大学でカトリックの神父も講義をされていたので一度、聞いたことがありました。するとその方は「行いも大事、自分は何もできないと思っても、能力や経済力がなくても、神様は良いことをする機会を必ず与えてくれます。だからどっちも大事なのです。」と。使徒の書簡の中(ヤコブの手紙2:26)に”行いのない信仰は死んだものです。”とも書いてあります。(これは後ほど知った聖句ではありますが、あまり説教にはならなかった箇所だったかな?)では、聖書の中でイエス様はなんとおっしゃっているか? “『主よ、主よ』と言う者が皆、天の御国に入るのではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。”(マタイ7:21) [ああああ、主よ、主よと言っているなあ・・・何もしてないし・・・。と思いつつ。]”わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思っはならない。廃止するためではなく、完成するためである。”(マタイ5:17) 信じる者のハードルが上げられます。そして、”だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。”(マタイ5:48)これは使徒となる弟子に言われたことで、一人の小さな信仰者である私たちに対してではないと耳を塞いでいいのでしょうか・・・という、キリ

スト者である事は、すごく難しい事とのように思えてしまうかもしれない。まだ、信じていない隣人を躓かせてしまうかもしれません。とても出来ないと・・・。金持ちの青年とイエス様の問答の箇所(マタイ 19:16～30)で金持ちが神の国に入るよりも、ラクダが針の穴を通る方がまだ易しいとのイエス様の御言葉に対して、弟子たちは「それではだれが救われるのだろうか」と言いました。そしてイエス様は弟子たちに言われました。「それは人間にはできることではないが、神は何でもできる。」イエス様は十字架への道を行かれました。私たちの罪の身代わりに。

その事実によって私たちは救われ、それを信じることによって義と認められた。私たちに出来ない事、神様はしてくださっているそう思います。”わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。これからはもう罪を犯してはならない。”(ヨハネ 8:11) 神様は私たちの弱さを知っています。いつも立ち返る事を望んでいると思います。私たちが聖書の中に流れる川を見失うことが無いように。

## 聖書豆知識

### 典礼色のはなし 小椋 実央牧師

典礼色、という言葉はどこかでお聞きになったことがあるかと思う。当教会ではあまりお目にかかることはないかもしれないが牧師のストールや講壇にかける布が白だったり、紫だったりするアレである。キリスト教の大切な祝祭日象徴するために定められ、礼拝に用いられている。

とは言いつつも一年中で教会が最も華やぐ時期である降誕節と復活節は白なので、典礼色の存在そのものがいまいちインパクトに欠けているかもしれない。インパクトという意味では聖霊降臨節の赤のほうが強烈で、以前教会学校で「みんなで赤いものを身に付けてペンテコステ礼拝を守る」を経験したが、なかなか楽しい記憶と共に心に刻まれている。

1年で最も長く用いられている色は三位一体節の緑である。緑は「永遠の命」や「平和」をあらわしているようで、なるほど1年の大半、教会を彩るのにとってもふさわしいと言える。1年のうちでたったの1日しか用いられない色もあり、それは聖金曜日の黒である。説明の必要はないかもしれないが、黒は「死」や「闇」をあらわしている。

受難節は「祈りつつ悔い改めて過ごす期間」

ということは知識としては知っているものの、なかなか実践は難しい。せめて今年は典礼色を意識して、受難節の紫から始まって、黒、白と変化することを楽しみつつ、生活の中に教会の暦を根付かせていければと思う。



### ＝編集後記＝

イースター、おめでとうございます。新しい年度が始まりました。今年も長引く新型コロナウイルスの感染防止のため愛餐会は行えませんが、イースターの喜びをともに味わいたと思います。中島百合子姉の受洗おめでとうございます。新しい教会のメンバーとして共に信仰生活を歩んでいきましょう。教会建築は少し遅れていますが、もうすぐ完成です。神様の導き、本当に感謝です。今、大変な状況にあるウクライナの人々に神様の慰めと励ましがありますように心を合わせて祈っていきたいです。今回も原稿お願いしました方々、ありがとうございました。アーメン  
K・R

### 日本キリスト教団 瀬戸永泉教会

牧師 横山 厚志・小椋 実央

〒489-0822 瀬戸市杉塚町 5

電話、FAX：0561-82-2314

ホームページ：[瀬戸永泉教会](#)で検索または⇒

